



高浜市の「4つの財務諸表」を公表します 健全財政の堅持！

連結貸借対照表（バランスシート）

貸借対照表は会計年度末現在、市にどれだけの価値（資産・負債・純資産）が存在しているかを表すストックの明細です。表の左側は、プラスの価値である資産、右側は、マイナスの価値である負債と、正味の財産である純資産が記載されています。

(億円)

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
資 産	(1) 金融資産 資金、基金、未収金など	77.7	(1) 地方債 210.0
	(2) 事業用資産 市役所、公民館、学校、美術館、 保育所等の土地・建物など	503.2	(2) 借入金 2.1
			(3) 退職給付引当金 25.2
	(4) その他 8.3		
産	(3) インフラ資産 道水路、上下水道、橋、公園など の土地・設備など	788.7	負債合計 245.6
			純資産の部（現在までの世代が負担した金額）
			純資産合計 1,124.0
資産合計		1,369.6	負債および純資産合計 1,369.6

連結資金収支計算書

現金の流れを示すものであり、その収支を性質に応じて、区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているのか表示します。

(億円)

平成19年度末残高	23.2
1. 経常的収支 (行政サービスそのもの実施による収支)	29.7
2. 資本的収支 (固定資産の購入や売却による収支)	△13.3
3. 財務的収支 (借入や借入返済などによる収支)	△17.7
当期収支額 (1-2-3)	△1.3
平成20年度末残高	21.9

連結純資産変動計算書

貸借対照表に計上されている、資産から負債を差し引いた純資産が、1年間でどのように増減したかを表すフローの計算書です。純資産の増減は、将来サービスに対する蓄えの増減を意味します。

(億円)

平成19年度末残高	1,115.0
純資産の増加 (1) 税金、社会保険料、国・県などからの補助金など	193.5
純資産の減少 (2) 純行政コスト、資産の減価償却など	184.5
当期変動額 (1)-(2)	9.0
平成20年度末残高	1,124.0

3つのPOINT

本市に①赤字があるか②資産や貯金はどの程度あるか③負債はどの程度あるかの3つの視点からアプローチしてみたいと思います。



①赤字があるか

左下の表（連結資金収支計算書）より本市の平成20年度の決算収支は、1億3千万円の赤字ということがわかります。本市においてはこの赤字を少しでも減らせるよう更なる健全な財政運営を目指していきます。

②資産や貯金はどの程度あるのか

左表（連結貸借対照表）より本市の平成20年度末の資産は、市全体で1,369億6千万円あり、そのうち金融資産が77億7千万円（うち貯金約40億円）、事業用資産が503億2千万円、インフラ資産が788億7千万円、市民1人当たりの資産は約325万円となります。また、市民1人当たりの貯金は約9万5千円となります。

③借金はどの程度あるのか

左表（連結貸借対照表）より本市の平成20年度末の負債総額は245億6千万円であり、そのうち212億1千万円は金融機関などからの借入金で、市民1人当たりの負債は約58万円となります。

連結行政コスト計算書

1年間の行政サービスが、どのような形でどれだけ行われたかを表すフローの計算書です。現役世代に対して、平成20年度にどれだけのサービスを提供したかを表しています。民間企業における「損益計算書」にあたります。

(億円)

経常費用	176.5
1. 人にかかるコスト (職員給料など)	37.2
2. 物にかかるコスト (消耗品、減価償却費など)	23.7
3. 経費・業務関連コスト (業務委託や利息の支払など)	27.7
4. 保険給付・補助など (介護・国保給付費、団体等への補助金など)	87.9
経常収益	26.4
使用料・手数料等	26.4
純行政コスト (経常費用-経常収益)	150.1

●4つの財務諸表について

市民の皆さんに市の財政状況をより分かりやすく理解して頂くため国が推奨している「新地方公会計制度」に基づき、民間企業会計の考え方を導入し、本市の資産と負債の全ての状況（平成20年度末）を開示するものであります。

一般会計、特別会計、企業会計はもとより、外郭団体、例えば土地開発公社なども含めた連結会計の4つの財務諸表であります。

問合せ先 財務評価グループ ☎52-1111 (内線306)